

「お変わりもなく・・・、よいお年を・・・。」

いよいよ2学期最後の日。今年最後のあいさつになってしまいました。この挨拶が来年の初め新年の「お早うございます」につながるように、元気にあいさつしましょう「お早うございます。」（・・・お早うございまあす。）元気に574人の声が聞こえました。さて、今日は2学期の終業式。今年の、そして2学期の締めくくりの日ですね。そこで、今日は「お変わりもなくよいお年を・・・。」というお話をします。

「お変わり」とは、給食の「お代わり」。「もう一杯」ではありません。「変わらず元気にすごす、体の具合をこわさず、いつもと同じように・・・」、という意味です。

私がずいぶん昔にとてとてとお世話になった校長先生がいます。もう78歳のおじいさんになってしまいました。とても元気な、私にとっては大切な先生です。その先生はいつもおいそがしそうでなかなか電話してもつながりません。昨日の夜も何回か電話しましたがつながりません。どうしたんだろう・・・。いつものことで、いそがしくてなかなか話できません。すると、次の日、携帯電話に懐かしい元気そうな声で伝言が入っていました。前にもあったのですが、ちゃんと携帯電話に登録してないものだから、誰の電話かわからないようです。留守電はこうでした。

「お電話いただいてありがとうございます。どちらさまでしょうか。電話に出られずすみませんでした。お変わりもなく、どうかお元気で、よいお年をお迎えください。来年もよろしく願います。では、おやすみなさい・・・。」

そして、つい最近いただいたお手紙でも「お変わりもなく、学校でお元気にご活躍のようで・・・」

お変わりもなく、そう言われると、何だか元気でいないといけないな、と思うのです。

懐かしい人に会うと昔の方々は、よくこの言葉を使います。「お変わりもなく・・・。」
変わらないこと、いつもいっしょ同じでいることって、とても大変なことなのです。

特に、昔は今と違い、暖房や暮らしの便利さも違い、冬の寒さを乗り越えることが結構大変で、お年寄りには厳しい季節でした。ですから、12月の暮れやお正月の挨拶では、「お変わりもなく」「よくぞお元気で」「元気でまたお会いできましたね。ありがたい、ありがたい」と、変わらないことはとてとおめでたいことだったのです。

変わらないでいるには、自分の健康を自分で守ること。努力してできないことをできるようにすること。そんな努力を続けていかないと、変わりなくだんだんに大きくなって、みんなと、元気に仲よく楽しく過ごしていくことができませんね。

もう今日一日で2学期も終わり。そしてすぐに今年も終わりです。そして、3学期は新しい学年への準備。

「お変わりもなく」新しい1年を過ごすために、2学期を、そしてこの1年間みなさんとずっと一緒に過ごし見つめてきた担任の先生から今日、「つうしんぼ」が届きます。

「こんなところよく頑張ったね。こんなところをがんばるともっと楽しくなるね。」そんな、皆さんの来年へのヒントのたくさん入った先生からの「おうえんメッセージ」です。それを読んで、「お変わりもなく次に来る、よいお年を」迎える準備をしてください。

よい年を迎えられるということは、今年1年間いろいろなことがあったけれどもそれを乗り越え「げんきに・なかよく・たのしく」過ごせたということです。

昔から、1年間がんばった人たちのところに「お正月さん」という神様が、ユズリハという古い葉っぱと新しい葉っぱが入れかわり、新しい年には新しい若い葉が出てくる、そんな葉っぱに乗ってやってきて新しい年を迎えさせてくれる・・・といえます。

だから、1年間がんばって仕事をして、お正月さんを迎えるためのお餅とお酒をお供えできるように、働きました。「♪雪のような餅食って、油のような酒飲んで♪」新しい年もがんばろうと、お祝いしたのです。

皆さんはどうか・・・。1年間「元気に・仲よく・楽しく」すごすように努力できましたか。新しい年のお正月さんは来てくれそうですか・・・。今日は、改めて自分自身でしっかり1年間の「自分」を振り返ってみてください。

お変わりもなく、ここにいる皆さんが垂たらしい年を元気に迎えられるといいですね。お話を終わります。

